

肺炎球菌ワクチン 《23 価と 20 価/15 価》（改定 2025）

《シニア用 23 価（ニューモバックス）ワクチン》

65 歳の 1 年間に 1 回のみ定期接種となりました。昨年度までの 5 歳刻みで 70、75、80、85、90、95 と 100 歳は終了しました。この効果はせいぜい 5 年ですので、5-7 年後に任意接種はできますが 2 回目以降の追加はお勧めしません。より有効な接種を紹介します。

《シニア用 20 価（プレベナー）と 15 価（バクニューバンス）ワクチン》

65 歳以上で推奨しています。まだ任意接種ですが、免疫細胞（リンパ球）に作用して長期の免疫持続が期待できます。65 歳未満でも肺炎に罹りやすい人には推奨しています。

★より有利な接種方法と順序について説明します。

今までは、15 価を先に接種すると免疫効果が高まり、その後の 23 価を追加した時により高い免疫が期待できます。初回 23 価を接種後、5-7 年で 2 回目の 23 価を追加した時よりも高い予防効果が得られます。23 価を追加接種する 1 年以上前に 15 価を接種するようにと伝えていました。

これからは先に 20 価を接種すれば 23 価の追加は不要ですから、より簡単に肺炎球菌性肺炎の予防ができるようになりました。

この肺炎球菌ワクチンは全ての肺炎を予防するものではありませんが、ワクチンに含まれる種類と関連する数種類にのみ有効とされます。20 価ワクチンは 23 価ワクチンよりも有効です。23 価は定期接種ですが、20 価は自費接種です。

2024 年 10 月から 20 価のプレベナーワクチンが任意接種として利用できます。

20 価ワクチン 1 回の接種でその後の 23 価の追加接種は不要です。

【組み合わせの接種方法（定期接種も含めて）】

- 1) 23 価を 65 歳の 1 年間に定期接種する。その後は 5-7 年毎に 23 価で追加する。
定期接種は 1 回のみ。3 回目の追加以降はあまり効果的ではないので推奨はしない。
- 2) 既に 23 価を接種している方で、5 年経って 2 回目の 23 価を接種する予定なら、20 価を接種すれば終了となります。
- 3) 20 価肺炎球菌ワクチンのプレベナーなら、任意接種で 1 回接種して終了できます。
- 4) 脾臓摘出後や免疫低下時の肺炎球菌ワクチンは、23 価が計画されますが、この時にも 20 価ワクチンを推奨します。23 価は不要です。同時に Hib ワクチンや 4 価髄膜炎ワクチンの接種も検討ください。その後の追加接種など具体的な接種計画については相談ください。

Ⓐ 23 価の定期接種（1 年以上あけて）20 価【更なる追加接種は不要と考えられています】

Ⓑ 20 価の接種【この場合には更なる追加接種は不要と考えられています】

Ⓒ 20 価で接種（脾臓摘出時や免疫低下などで感染リスクが高い時）
【要相談；同時に Hib ワクチンと 4 価髄膜炎ワクチンも計画する】

